

各 位

御 礼

春寒の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、去る2月22日（日）に開催いたしました「第20回全国車いす駅伝競走大会」は、貴台をはじめ約4,300名余に及ぶ関係各位のご尽力とご協力により万全の体制で当日を迎えましたところ、午前11時30分のスタート時は曇り空でしたが選手にとっては駅伝日和ともいえるベストコンディションとなりました。2年前に転倒事故が発生した第1中継所手前の最後のコーナーでは、安全マットを設置するなど走路の安全確保並びに自主整理体制を強化し、30チームの選手たちが安心安全に走行できるように努めました。

レースでは、スタート直後から快調に飛び出した九州ブロックが2位の岡山に9秒の差をつけてトップで中継しました。その後2区で大分Aがトップに躍り出て3区もトップで中継し大分Aの9回目の優勝かと思われましたが、第4区で京都Aが想像をはるかに超える快走でトップを奪い、23秒差をつけて第5区アンカーへ引継ぎました。競技場内で大分Aに肉薄されたものの2秒差で逃げ切り見事14年ぶり2度目の優勝を果たしました。第2位には2年連続の大分A、第3位には3年連続の神戸市が入り、前回優勝の福岡は単独でチーム編成が出来なかったものの九州ブロックの合同チームで出場し6位入賞しました。なお、京都Bは24位でした。

また、今回は第20回の節目の大会であり、開会式で連続出場表彰や協賛企業・ボランティア団体への感謝状贈呈などを行いました。

レースでの選手たちの激走に幾多の感動のドラマが生まれ、おかげさまで無事に終了し、所期の目的を達することができました。ここに皆様方のご支援ご協力に衷心より厚くお礼申し上げます。

全国から参加された30チームの選手諸君は幾多の障害を克服して、待望の京都の都大路で日頃鍛えた力を遺憾なく発揮し、約50,000名に及ぶ沿道の府民・市民の温かい声援と協力により完走した闘志と喜びは、まさに明日に向かう明るい希望と勇気と自信が生まれたことと存じます。

また、大会を通じましてご指摘いただきましたご意見等は、来年開催への貴重な糧といたしたい所存でありますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

まずは、略儀ながら書中をもちましてお礼のごあいさつといたします。

平成21年2月26日

全国車いす駅伝競走大会実行委員会
会 長 山 田 啓 二